

## 平成23年度 見学会事業報告

座長 (株) 竹村製作所 岡澤 弘昌

日 程 平成23年11月15日(火)～16日(水)(1泊2日)

参加者 8名(会員7名)

### 見学先

11月15日(火)

- ・坂本造機(株) 所在地:大阪府和泉市テクノステージ3-9-5
- ・大阪府立産業技術総合研究所 所在地:大阪府和泉市あゆみ野2-7-1

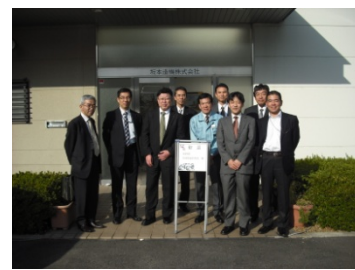
11月16日(水)

- ・(株)新日本テック 所在地 大阪市鶴見区浜2-2-81

### 内 容

#### 坂本造機(株)

- ・1951年創業。現在の本社は2005年移転。社員は45人+役員3名。
- ・主要製品は、フィルム、ゴム、プラスチックなどを任意の形状に切り出し加工する型抜機である。①省エネの要望が高まってきたり、②メカ式では粉塵が発生してクリーンルーム内で使用できないため、サーボプレス式の型抜機が主要製品となっている。型抜機を用いて、世の中では携帯電話の表示部、薄膜フィルム型太陽電池、エアバック、ナイロンたわしなどが作られている。
- ・市場規模は100億円程度。坂本造機は1割を占めていて、業界4番目の地位である。
- ・売り上げの6割が国内、残り4割が海外。市場が小さいため、大企業の参入は無い。
- ・「(第1回)大阪ものづくり優良企業賞」で最優秀企業賞に選ばれた。
- ・重ね合わせたフィルムの片側だけをカットするハーフカット技術や、画像認識により50 $\mu$ mの精度でXY $\theta$ 方向の制御を行い、毎分200ショットで型抜きする精密位置決め型抜き技術を保有している。認識の手がかりとして、シートの脇に印刷されているマークを利用している。
- ・機械は、受注後1月～1年半で納めるようにしている。ただし、鋳物製台座の納期は3月、位置決め用の精密ボールねじは納期半年ということで、やりくりを頭を痛めている。



坂本造機にて。左写真はSN001の型抜機。偶然顧客のところにあった機械を譲り受けたようだ。中央は最新型の型抜機。これで3500万円程度との事。

## 大阪府立産業技術総合研究所（産技研）

- ・現在の建屋は平成 8 年完成。職員は 121 名。
- ・ベンチャー企業向け支援室を 14 室用意してあるが、現在は 5～6 室が空室となっている。
- ・当日は研究成果発表会が行われていたので、パネルセッションを 30 分ほど見学後、主だった施設のみ見学させてもらった。
- ・特徴的な施設として、加減圧室、人工気象室、包装関係の諸々の実験装置があった。
- ・大阪市立工業研究所との棲み分けは、産技研が材料や電気関係に強みがあるのに対し、市立は化学が得意との事。また、産技研が中小企業支援を念頭に置いているのに対し、市立は研究志向が高い、との説明があった。

## (株) 新日本テック

- ・1953 年創業。従業員は 75 名。
- ・創業当初はファスナーを手掛け、YKK とシェアを 2 分していたが、関連装置を売却し金型製造分野に進出した。
- ・金型そのものを作って売るのではなく、独自の技術により金型の精度を高めたり、長寿命化の工夫を施したりする技術を提供している。例えば、ダイヤモンド粒子を焼結し靱性を付加した PCD（コバルト焼結ダイヤモンド）を素材とした金型製造技術開発は、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）に採択されている。
- ・「寿司屋型ものづくり」を標榜している。その心は、①良い店、②ネタづくり、との事。金型にこだわることなく、提示された問題を解決していく、という意気込みが込められているようだ。
- ・各企業の技術力の差が無くなりつつある状況で、顧客に何をアピールしていけば良いか考えた結果、社長や従業員が仕事に込めた思いを語った動画を Web 上に公開している。
- ・社内の良い雰囲気が良い仕事につながるという思いから、毎年夏休みに社員の家族を会社に招いて、仕事の内容を知ってもらったり、子供たちにもものづくりへの興味を持ってもらうよう努力している。
- ・鳥取と岡山に営業所がある。鳥取出身の社員が帰郷することになったが、そのまま退職させるのはもったいなかったため、普段使用していた加工機を持たせ、現地営業所を作らせたのがはじまり。岡山の営業所設置理由は大阪と鳥取との中間点であるため。
- ・社長は常々「良い物を作ってもチャンスが来るとは限らないし、知られていなければ存在しないことと同じ」という危機感があったそうで、その解決策として、企業集団大阪ケイオスを立ち上げ、運営している。現在 20 社が参加している。さまざまな分野を得意とする企業が横に連携することで、カンパニー制大企業と変わらぬ組織としていきたいとの事。これまでの取り組みの結果、①異金属間の接合に関して ISO 化の準備に着手、② 3 S 文化の発信、③ 萌えツアーと称する学生向け就職活動支援イベント、④ 東日本大震災の復興支援、⑤ メンバー企業のコア技術をまとめた冊子を印刷し配布、⑥ 企業連携と地域交流が活発化、という成果が出ている。特に萌えツアーは、参加学生の 98% が役に立ったと回答しており、大企業にばかり目が向きがちで中小製造業には興味を示さない学生に対してかなりの効果があったようである。正式に大阪府の支援も得られるようになったようである。



新日本テックにて